

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	道幅の狭いT字路を左折しようとした際、電柱(高さ約1.5m)に付帯されている鉄筋と接触し、転回不能に陥りそうになった事案
3. 体験した事例の中心的要素	訓練準備のため訓練現地へ救助工作車で出向し、作業を完了させ現地から引き揚げる時、狭隘道路に進入し、道幅の狭いT字路を左折しようとした際に電柱(高さ約1.5m)に付帯されている鉄筋と接触し、転回不能に陥りそうになったもの。
4. 体験した事例の原因・理由	<ul style="list-style-type: none"> ・走行ルートを選定ミス ・機関員へ走行可能か隊長及び別隊員から確認の声が挙がったが、機関員が走行可能との判断をし、狭隘道路に無理に進入してしまったこと。 ・道幅の狭いT字路であったため、車両前方(左右含む)の確認は行っていたが、電柱に付帯されている鉄筋の認知が遅れたこと。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。(大丈夫だろうと思った。)
------------------	------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	令和5年5月30日 午後3時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外: 狭隘T字路
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	その他: 障害物との接触により転回不能になる恐れ
7. 事例体験時の活動	その他: 訓練会場事前準備後の出向時
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他: 訓練会場事前準備後の出向時
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[33]歳、勤続年数[15]年、現場経験年数[12]年、階級[消防士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[40]歳、勤続年数[22]年、現場経験年数[]年、階級[消防司令補] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [車長]
○当事者C	年齢[25]歳、勤続年数[7]年、現場経験年数[7]年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [機関員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	当事者D 年齢23歳 勤続5年 現場経験5年 消防士 同様の活動は初めて 隊員

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A・B・C	現場付近が狭隘道路であったため、走行ルートの選定を話し合う。	
経過2	当事者C	経過1により選定ルートに進入するが、T字路を左折する行動をとる。	
経過3	当事者A・B・D	狭隘なT字路であったため、下車し車両周囲に隊員を配置し誘導にあたる。	
経過4	当事者B・D	車両前方より、左前方及び右前方に1人ずつ配置し左折の誘導にあたる。	
経過5	当事者A	左後方及び右後方のエリアを1人で監視しており、障害物の認知が遅れる。	
経過6	当事者C	左折を試みるが、左折出来ないと認知しつつも微速で行ける所まで走行してしまう。	
経過7	当事者A	右後方監視から左後方監視に移動した際に、障害物が急接近していることを認知。	
経過8	当事者A	警笛を使用し、危険である旨を全隊員へ周知する。	
経過9	当事者C	走行を停止し、元の進入ルートにバックして危険域から離脱する。	
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
- ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険事象の対応方法を知っていた 避難退避がうまくいった 他隊(員)から適切な注意を受けた たまたま、事故にならなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	はい

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	はい

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

--

○活動環境の対策について

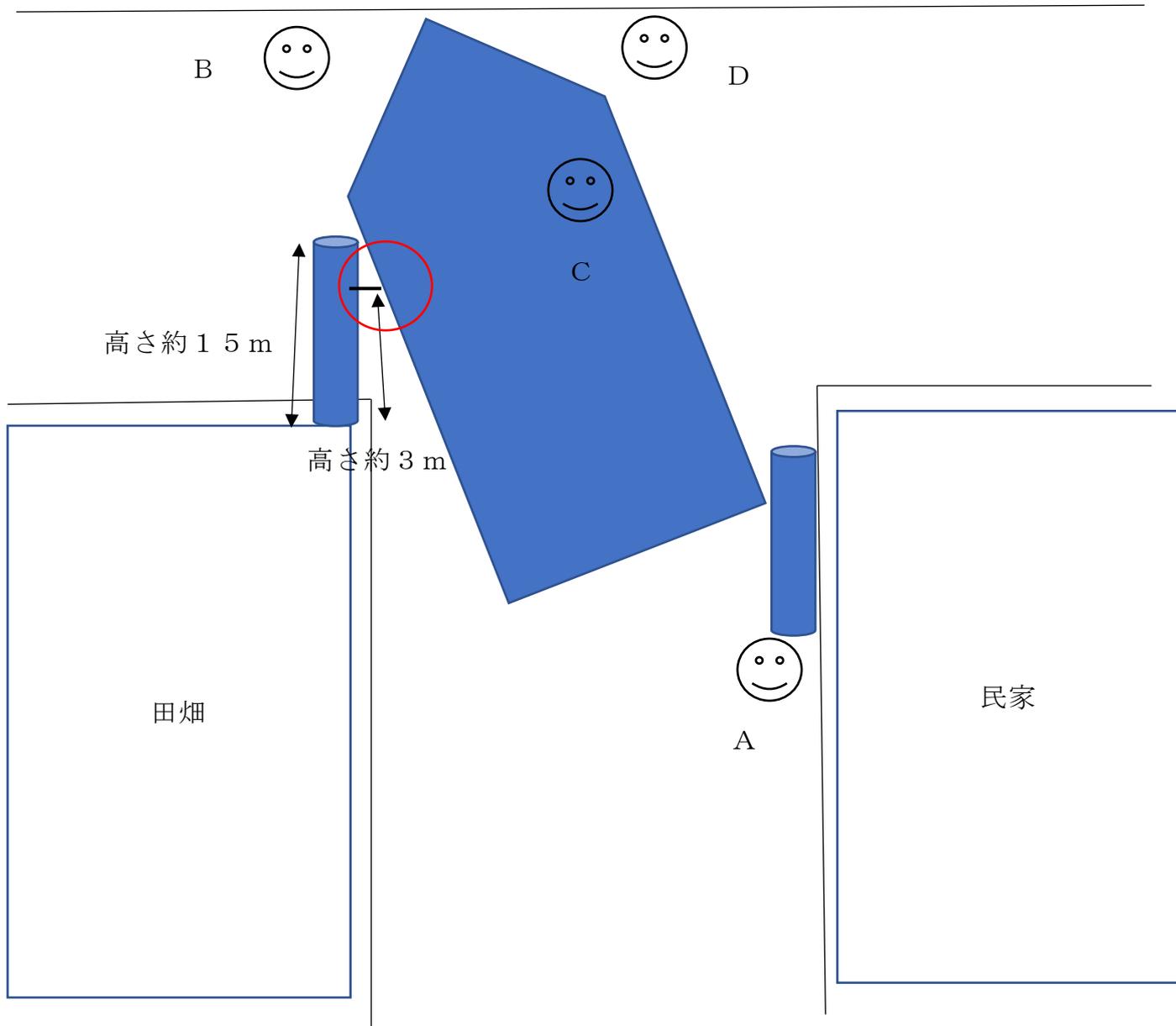
--

○指揮・情報伝達の対策について

--

状況図

ガードレール



(補足)



車両



電柱



鉄筋障害物



ヒヤリハット
該当箇所